

(参考) 第9回JET地域国際化塾（福島県）について（R6.12月実施）

福島県でのJET地域国際化塾の概要（令和6年度12月実施）

<1日目：福島県における地域活動に関する事例発表>

- 福島県 内堀 雅雄 知事から、復興・復旧の歩みや、複合災害（地震・津波・原子力災害）の教訓等から「持続可能な社会・地域づくり研究・創造する」福島オンリーワンの新しいスタディープログラムなどの取組についてのご挨拶（ビデオメッセージ）や、地域づくり関係者から事例発表、意見交換を行い、JET青年の地域活動に対する関心を喚起。

高橋 大就氏（一般社団法人 N o M A ラボ 代表理事）

「Why FUKUSHIMA coastal are is the most exciting now?」
(なぜ今、福島県浜通り地域が一番あついのか？) をテーマに、新たな価値の創出についての取組や
インバウンドの需要喚起などについて、海外への情報発信や取り組みについて講演



内堀 雅雄 福島県知事のご挨拶



高橋 大就氏の講演の様子



地域づくり関係者から話を聞くJET青年



和紙の伝統技術を学ぶJET青年

<2日目：地域おこし協力隊等の地域づくり関係者が活動する地域での現場視察・意見交換>

- 地域おこし協力隊をはじめとした地域づくり関係者が活動する現場を視察するとともに、地域の文化や伝統産業を継承させるための取組を体験し、車座（意見交換）を通じて、地域の魅力を理解
(主な視察先：酒造りの担い手育成、地元木材を活用した地域活性化方策、伝統的な製紙技術の未来への継承活動 等)

<3日目：事例発表と現地視察を踏まえた成果発表>

- 地域の魅力、地域を更に発展させる取組などについて、JET青年同士でグループディスカッション
- 各グループの発表に対して地域づくり関係者からの講評を行い、JET青年の地域活動に対する理解を深化させることで、JET青年による地域活動への取組を促進

JET青年の地域活動への参画について（JET地域国際化塾の参加者へのアンケート）

- 地域の魅力について、海外在住の家族や国内外の知人（外国人）に対して、SNSを使ってPRする。
- JET参加者は、外国語授業以外に、地域活性化や文化振興などの様々な地域活動に携わることができることを認識。
- 今回の知見・経験を勤務する学校の生徒にも共有し、地域での活動や文化について学ぶ学習を実施する予定。
- JETプログラム終了後も福島県に残って地域活性化の力になれるような活動をしたい。



グループワークの様子